

駆除のために仕掛けられた罠で、身動きが取れなくなっているイノシシ  
(5月26日午前8時14分ごろ、和味地内で撮影)

# 特集〈共感と協働〉

## 有害鳥獣被害対策

イノシシやクマなどの有害鳥獣による被害が深刻さを増しています。これらの野生動物は鋭いひづめなどで田畑を荒らし、果樹園などの樹木の枝を折り、作物を食い荒らします。全国的には近年、住宅地近くでも目撃され、人身被害の発生など事態は深刻化の一途をたどっています。

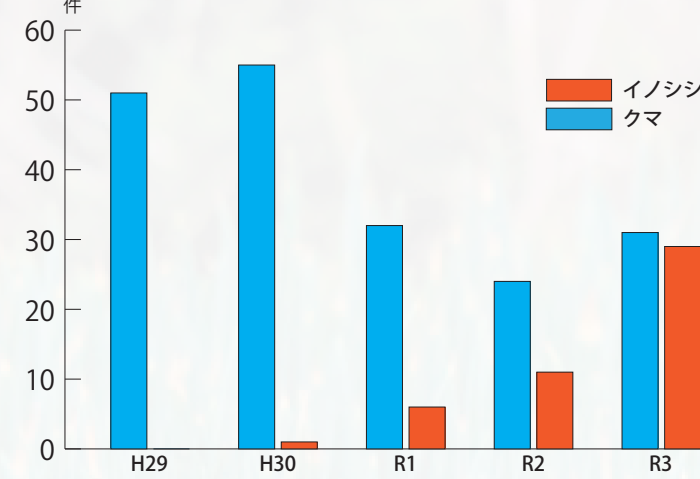
有害鳥獣害駆除として町は、矢巾町猟友会に所属している会員を「町鳥獣被害対策実施隊員」に任命し、協力して駆除を進めています。特にイノシシの繁殖力はすさまじく、生息数は依然として増加している現状があります。

この特集では、鳥獣害の現状への「共感」、農地での予防策実施や狩猟免許の取得などを通した皆さんとの「協働」による鳥獣害対策へつなげるため、町の有害鳥獣対策の状況、駆除に立ち向かう町の猟師たちを紹介します。

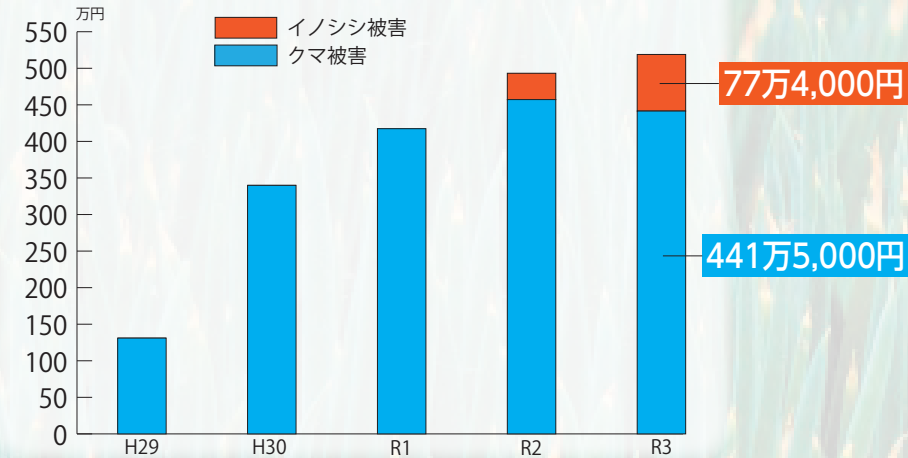
# 深刻化する 農業被害

町内における、有害鳥獣の農業被害は近年、イノシシによるものが増加しています。以前はツキノワグマによる被害が大半でしたが、平成30年頃からイノシシが目撃され始め、令和2年に初めて農業被害が発生。翌年には金額にして2倍以上に被害が膨れ上がっています。また、令和3年はツキノワグマ、イノシシによる被害合計額が初めて500万円を超えています。

被害・目撃の報告件数の推移



農業被害額の推移



## イノシシ被害が拡大

近年、イノシシの生息域が拡大しており、町内でも今後さらに被害が拡大するおそれがあります。イノシシは、ひづめや鼻で地面を掘り起こすため農作物とともに、農地そのものを荒らします。

加えて、繁殖力が強いイノシシを駆除のみで被害を抑制するのは非常に困難な状況があります。町は野生鳥獣の生態や駆除について知識や技能、経験を持つ町猟友会の会員を毎年「町鳥獣被害対策実施隊員」に任命し対策しています。が、繁殖に駆除が追いつかず、加えて会員数も減少しています。

## 自ら環境を作る

町鳥獣被害防止対策協議会は、狩猟免許の取得への補助金交付を行い、猟師の増加を目指すとともに、農家の被害を防止する取り組みを実施しています。

農地の被害防止には、各家庭でも取り組める対策があります。また、自分の家はもちろん、隣近所で一緒に取り組むことで、野生動物が近寄りにくい地域環境を作ることでもあります。また、環境を整えることで作業が円滑に行われ、駆除の効果も高まります。5月のポイントを意識して、被害を防止しましょう。



イノシシに荒らされた田んぼ



クマによるリンゴの被害は果実を食べられる他、枝を折られる被害もある。

## 自分の農地を守るポイント

- 野生動物が隠られる居場所をなくす
- 農地の周辺の下草、やぶを刈り払う。
- 野生動物が食べられるものをなくす
- 収穫しない果樹を伐採する。
- 野菜くずや生ごみなどを農地に放置せず処分する。



## 電気柵による対策実施

イノシシなどによる農作物への被害防止のため、不動中山間地域（岩清水、館前、和味）の山沿い約7㌔に電気柵を設置しています。電流が流れている線に触れることで電気ショックを与え、イノシシなどを撃退する仕組みです。この柵には、「きけん」と書か

れた黄色い板が付いていますので、柵の付近で作業、または通行する際には、線に触れないよう十分ご注意ください。  
※触れると静電気のような痛みはありますが、人体には無害です。

▼問い合わせ 役場産業観光課 農林振興係 ☎611-2612

## 被害の現状に理解を深めて

### 村松隆夫さん 矢巾町猟友会長



近年、農業被害を拡大させているイノシシの特性や駆除に係る現状などについて、猟師歴51年で矢巾町猟友会長の村松隆夫さんに聞きました。

### ●イノシシの増加が深刻

イノシシは繁殖力が強く、一度の出産で平均4・5頭が生まれます。そのため、個体数を減らすのは非常に難しく、生息していると思われる総数のうち毎年7割以上の駆除を続けて、ようやく減り始めるような状況です。

また、イノシシは雑食性。人が食べるものはもちろん、虫なども食べる。いやがる作物はなく、畑のものは全て食べられると考えるべきだと思います。

### ●「人を恐れない」新世代のクマに注意が必要

近年、人里近くにある里山で、人の管理が行き届かずに荒廃していることから、こういった場所に

クマが住み着いています。里山はすぐ近くに人の生活圏があることから、人間をよく知り、自動車の音や生活の匂いにも慣れているため、人間を怖がらない。このようなクマが増えており、注意が必要です。

### ●猟師数の減少が課題の一つ

イノシシの頭数が増加している一方で、狩猟免許を持ち、有害鳥獣の駆除を担う猟師の数は減少しています。私が狩猟免許を取得したのは昭和46年でしたが、町内の猟師数は昭和40年頃まで約100人で推移していました。その後は年々減少を続けており、今年度は22人となりました。猟師の確保も課題となっています。

### ●駆除活動に協力を

町内の猟師は「町鳥獣被害対策実施隊員」として、町の委嘱を受けて対策活動を行っています。作業中の安全管理、日頃から銃の点検も徹底し、一人一人が事故防止、安全を第一に責任をもって取り組んでいます。

### ●一緒に活動しましょう

最近ではジビエ料理に関心を持ち、狩猟免許を取る方もいます。自然が好きな方、猟に興味がある方、ぜひ免許を取りましょう。

# 野鳥の 狩師とは



「野生鳥獣の保護・管理の担い手」という、社会的役割を担う狩師。近年、野生鳥獣に関する各種被害の多さから、その役割が増している。

狩師と呼ばれる彼らは山のスペシャリストだ。クマやイノシシなど、野生動物の生態系に精通し、猟で立ち入る山の地形や獣道の位置などを詳細に把握。銃の管理や罠の仕掛け方など、技能面においても鍛錬を怠らず、狩猟の末に頂いた動物の命への感謝も忘れない。

狩師は元々、山や野生動物などに関心を抱き、その中で狩猟と出会い趣味として、動物との知恵比べに楽しさを見出してきた。そして、狩猟で培った専門的な技術や経験には行政からも信頼が寄せられ、有害鳥獣の対策活動でも活躍している。

7、9ページでは、矢巾町猟友会に所属する梅津昭夫さん・智美さん夫妻、田村倫子さんの3人の鳥獣害対策への思いなどを紹介し、活動の原点である狩猟の魅力を探る。

## 猟とジビエに 魅せられ

梅津さん夫妻（東徳田）

狩猟歴10年の梅津昭夫さん、13年の智美さん。ベテランの2人に猟の魅力、活動の中で心掛けていることなどを聞きました。

### 環境の変化を実感

― 狩師になったきっかけは。

**昭夫** 職場の同僚で猟友会員がとても多く、それに影響されて始めた。業種としては猟にまったく関わりがないが、射撃にも興味があったので。

**智美** 前に勤めていた職場で知り合った方が狩師で、狩ったシカ肉をもらっていた。何度も頼んでいたなら「それなら、自分でとってみたら」と言われたことがきっかけ。

13年前、女性の狩師はほとんどいなく、銃関係の申請でも門前払いのようなこともされた。今では全国的に女性の数は相当増えた。

― 狩猟環境に変化を感じることは。

**智美** 免許をとった当時、シカは主に沿岸、内陸でも山深いところに生息し、イノシシは雪深い地域にはいないといわれていた。でも、矢巾にも出るようになった。以前では考えられないこと。免許取得から10数年で、生態がこれだけ変化している。

## 猟の醍醐味と心掛け

― 猟の魅力、現場で意識していることは。

**昭夫** 通常、猟には複数人で行き、獲物を追い立てる人や、銃で仕留める人など役割分担がある。仲間とともに獲物を求めて山を歩き、猟をしてみんなで肉を分け合って飲み食いをするのが好き。

猟の際は事故防止のため、周囲の安全確認を徹底する。登山者や林業従事者の方など、一般の方を巻き込まないよう、猟の最中にはトランシーバーなどで連絡を取り合い、安全を確認している。

― 狩った獲物のその後は。

**智美** 「捕った後、クマやイノシシはどうするの」と聞かれることが多い。獲物は、狩った狩師が自ら血抜きや解体をして、肉を自分と一緒に猟に出た仲間に分けたりする。



梅津昭夫さん、智美さん（右から）

2人は会会う前から狩師として活動しており、智美さんは妊娠・出産のため離れた時期はあったが、その後は猟を再開。協力して子育てをしていることも、お互いに猟を続けられる理由の一つ。



ただ、闇雲に殺生をしているわけではない。猟にしても、駆除にしても、命を頂いていることに変わりはなく、猟に集まった仲間とともにクマやイノシシにお神酒を上げて拝み、命に感謝する儀式をする。また、8月には矢巾町と紫波町の狩師が加入している紫波郡猟友会として、矢巾総合射撃場敷地内にある鳥獣慰霊碑の前で慰霊祭を行っている。このような形で、頂いた命と向き合っていることを知ってもらえれば。

― どんな人に狩師を目指してもらいたいのか。

**智美** 例えば射撃に興味があったり、ジビエ料理に興味があったり、きっかけはさまざまあると思う。年齢関係なく始められて、定年退職してから狩師になる人も多く、興味とやる気があれば、誰にでもチャンスがある。

## 狩猟免許試験の日程と 免許取得の補助金交付 に関するお知らせ

県の猟免許試験が行われます。日程などの詳細は下表と県ホームページ（QR）をご覧ください。  
お申し込みください。



▼受験料 5,200円（他種免許所持者は3,900円）

▼申し込み 盛岡広域振興局保健福祉環境部（☎629-6583）

▼問い合わせ 県環境生活部自然保護課（☎629-5371）または申込先

| 日時                      | 会場               | 実施講習                  |
|-------------------------|------------------|-----------------------|
| 9月4日(日)<br>午前9時30分～午後5時 | 【花巻市】<br>花巻市文化会館 | 網猟<br>わな猟<br>第一種銃猟    |
| 12月18日(日)<br>午前9時～午後5時  | 【滝沢市】<br>岩手県立大学  | わな猟<br>第一種銃猟<br>第二種銃猟 |

### 狩猟免許を取得する方へ補助金

町鳥獣被害防止対策協議会は狩猟者の確保のため「新規狩猟者確保対策事業補助金」として、新たに狩猟免許を取得する場合の費用の一部に補助金を交付しています。

▼対象者 ①町内に住所があり、4月1日以降に新たに狩猟免許などを取得または取得予定の方 ②町猟友会に加入し、町鳥獣被害対策実施隊員として5年以上継続的に活動する意思がある、または加入予定の方

▼補助対象 わな狩猟免許または第1種銃猟免許の取得などに係る経費銃砲所持許可の取得等に係る経費銃銃等の購入等に対する経費

▼補助率 100分の100（上限10万円）※千円未満切り捨て

▼申し込み・問い合わせ 町鳥獣被害防止対策協議会（役場産業観光課農林振興係☎611-2612）



罾に掛かったイノシシが暴れ、鼻や足で地面が荒らされた場所。地面が深くえぐられ、地中にある無数の石が露出している。



田村倫子さん（南昌）

「力を貸して」  
その声に応えたい



作動したが、獲物を捕まえ損ねた罾の手直しをする田村さん（5月25日撮影）。この翌日にイノシシ（3歳）が掛かった。

狩猟4年目の田村倫子さんは、地元・南昌の住民の協力を得て、罾による有害鳥獣駆除に取り組んでいる。罾については、ベテランの梅津夫妻からも一目置かれる腕前だ。

### 旧友との縁

静岡県出身の田村さんは、矢巾に移り住み十数年。平成29年夏、古里の友人が岩手を訪れたことが、狩猟に興味を持つきっかけとなった。「友人が師匠と慕う元猟師の住まいが遠野にあって、そこまで車で送ったことがあり、その方と友人が猟について楽しそうに語るのを見て自分もやってみたくまりました」。田村さんはすぐに準備を始め、その年の冬に行われた狩猟の資格試験に合格し、免許を取得した。

### 動物との知恵比べ

現在は南昌地区を中心に、町内4カ所に罾を仕掛けており、毎朝、獲物が掛かっているかを確認する。始めは既製品の罾を使用していたが、捕獲のたびに壊れるため自作するように。山中では獣道を注意深く観察し、獲物が掛かりやすく安全な

場所を選んで罾を仕掛ける。

「イノシシはとても鼻が利くので、獣道を人が歩くと、警戒して別の道を通るようにします」と話す田村さん。「罾を仕掛けても、失敗することの方が多い。でも、獲物が掛かったときに『こうすれば良かったのね』と、分かることがあります」と書籍などからは得られない、現場での経験の貴重さと楽しさを語った。

### 農家との連携が不可欠

有害鳥獣駆除を行う際、大切にしていることのひとつが、生産者とのコミュニケーションだ。日頃から畑に通い作業する人々が持つ情報は重要で「ここはクマの通り道になっている」「この奥に沢があり、動物の足跡があった」などの情報は周辺の地形の把握、鳥獣の行動予測などに生かされている。

田村さんは「（生産者への）あいさつがあるかないか、それだけで印象が変わってくると思う。先輩の猟師にもよく言われたことで、自分の中でも大事にしています」と話す。

また、田村さんが駆除に取り組む原動力となっているのが、生産者の「悔しい」という気持ちだ。農地や

### 有害鳥獣を見かけた場合は ご連絡ください

イノシシやクマなどの有害鳥獣を見かけた場合は、町有害鳥獣被害対策実施隊員などの関係者が対応しますので、役場への通報をお願いします。

特に、山林などで罾に掛かっている動物はパニックになっているため非常に危険です。近寄らず、早めにご連絡ください。

▼通報する内容 有害鳥獣を見た場所と時間、動物の種類、被害など

▼通報先 役場産業観光課農林振興係（☎611-2612）